

## 日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION  
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

## 目次

- 理事会報告・海外ニュース……………1
- 2003年洋書輸入統計(後編)……………2
- 委員会報告・お知らせ……………5
- 新・パソコン外論考(其46/最終回)……………6
- 出版文化史逍遙(89) 洋書の歴史雑記帳(XLIV) ……7

## 理事会報告

3月25日(木)

1. 以下の委員会報告を了承した。

(1)広報委員会:

4月5日のセミナー「インターネット時代のライブラリーと雑誌取次店の役割」には、非会員社も含めて17社48名の受講申し込みが来ている。

(2)事業委員会:

東京国際ブックフェア2004「洋書バーゲンコーナー」について:

- ・出店規模 15社/ワゴン 90台
  - ・商品用とは別に会員社のカタログなど洋書資料を置くワゴンを1台設置する。
  - ・ストック置場の確保及びコミッションの引き下げをリード社に交渉したがいずれも不可。
- 「洋書バーゲン」キャンペーン強化を申し入れた。

2. 2004年度予算案審議

全体を緊縮予算として支出を削減した中で、前年比大幅な増額となった人件費について関口総務委員長(日貿)より特に以下の説があった。

- ・現事務局長の2003年度人件費は臨時措置であり、新事務局長人件費については元の水準に戻すべきと考える。
- ・新事務局長は6月1日に就任し、1ヶ月間を引き継ぎに充てる。従って現事務局長4~6月分、新事務局長6~明年3月分を計上した。

審議の結果、同予算案を大筋で承認した。(決算結果による繰越金及び人件費の額に若干の変動が見込まれるので、次回理事会に於いて理事会案を最終決定する。)

3. 総会準備日程:

総会開催までの準備日程に関する事務局長報告を了承した。

- ・会計監査(監事): 4月16日(金)
- ・決算報告書及び予算案承認(理事会): 4月19日(月)
- ・総会開催通知: 4月第5週



## ◆ 2003年英国出版物の輸出増加

英語に対する関心が高まっている風潮に助けられ、昨年の英国出版物の輸出は増加した。総輸出金額は、13億1,000万ポンドで、昨年に比べ5.8%の増加。輸出先としては、引き続きアメリカが最大で、輸出総額全体の17%、2億2,350万ポンドを占めている。

the Bookseller.com.Informer APR 2,2004

## ◆ PenguinおよびB&amp;Nの業務交換

Penguin Group USAとBarnes & Nobleは、互いの業務の相当部分を交換することになった。今回成立した契約によると、PenguinはB&NのスーパーストアおよびDalton書店、そしてオンライン書籍販売業務を買い取り、B&NはPenguinが手がける広範囲の出版ビジネスを引き継ぐ。B&Nの英国子会社およびB&Nブランドでの出版については、B&Nが業務を継続する。B&N BooksおよびB&N ClassicsのインプリントをPenguin booksに統合することが計画されている。

これに伴い、PenguinではB&N.comを同社のウェブサイトに組み込む予定であり、同時にB&Nのスーパーストアを再編成する計画で、Dalton書店はB.Penguin Booksellersとなる予定。

PW Daily for Booksellers APR 1,2004

# 2003年（平成15年）1月～12月の洋書輸入統計（後編）

荒 木 亮 一

1994年から10年間の書籍・辞典・幼児用絵本の輸入額は、年毎にアップ・アンド・ダウンを繰り返しながらも約19.2%増（原価の上昇率4%/年を除いた増加率：表2参照）と堅調な状況であると言える。一方、新聞・雑誌は減少した。これらの状況が次の品目の輸入額にも表れているように思える。

## 4. マイクロフィルムの輸入通関統計

表4 2003年までのマイクロフィルム輸入通関額の推移（単位 百万円）

| 品名       | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 前年比    | 1996:2003 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|-----------|
| マイクロフィルム | 614  | 551  | 528  | 421  | 431  | 443  | 413  | 357  | 86,44% | 58,14%    |

### <考察>

新聞・雑誌、書籍、文献などを保存したマイクロフィルム（露光し、かつ、現像したものに限る）が実行関税率表のなかで「写真用プレートおよびフィルム（映画用フィルムは除く）」からはじめて分類されたのが1988年であった。整理や閲覧のために画期的存在として利用されて輸入が増加したからだと思うが、その輸入の歴史を辿ってみると、（1988～1989年はそれぞれ“¥28百万”、“¥22百万”となっている。が、「数字上では“88～89”は全く実態を表さず」と報告されている。）1990年は“¥780百万”、続いて1991年には“¥767百万”と急激にジャンプした。しかし、その後は1996年の前年比17%増を除けば退いてゆく波のように上下運動を繰り返しながら推移して、2003年は、記録上最盛期であった1990年の約46%にまで減少している。とりもなおさず、テクノロジーのなせる業であろう。

10年前の1994年（輸入額“¥524百万”）の記録では、1位米国が¥346百万で（前年比、81%）、2位英国で¥59百万（64%）、3位ドイツで¥52百万（100%）と、「米英両国の落ち込みが大きい。」と記されている。2003年と比較してみたい。米国が1位で¥290百万（前年比、82%）、2位ドイツで¥22百万（222%）、3位英国で¥19百万（78%）、4位オランダで¥15百万（139%）、5位フランスで¥8百万（66%）と、昨年も米英の落ち込みが大きい。一方ドイツ、オランダが増

加している。

## 5. “CD-ROM”の輸入通関統計

表5 2003年までのCD-ROM類輸入通関額の推移（単位 百万円）

| 品名        | 1996   | 1997   | 1998   | 1999   | 2000   | 2001   | 2002   | 2003   | 前年比  | 96:03 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|-------|
| (CD-ROM1) | 20,355 | 31,700 | 27,565 | 38,283 | 47,584 | 53,252 | 44,424 | 39,231 | 88%  | 193%  |
| (CD-ROM2) | ～      | ～      | ～      | 5,552  | 9,948  | 13,078 | 16,073 | 17,836 | 111% | ～     |
| 計         | 20,355 | 31,700 | 27,565 | 43,835 | 57,532 | 66,330 | 60,497 | 57,067 | 94%  | 280%  |

### <考察>

2003年の輸入額は前年比6%の減少である。円高と原価上昇の影響度はほぼ相殺されるとみる。CD-ROM（1）とCD-ROM（2）の分類は下記の通りで明確ではないが、先ず、輸入額の輸入先別構成比を見てみよう。CD-ROM（1）は1位アメリカが44%、2位シンガポールが14%、3位アイルランドが13%、4位ドイツが5%、5位フランスが4%と続く。CD-ROM（2）ではアメリカが21位で16%、台湾が1位で27%、3位香港が15.8%、4位シンガポールが12%、5位韓国が11%となっている。

次に主要輸入先別合計の前年比を見ると、1位アメリカが83.6%、2位シンガポールが64.7%、3位台湾が115.0%、4位アイルランドが91.0%、5位香港が258.9%、以下ドイツ、韓国、英国、フランス、中国の順で続く。1位のアメリカが前年比で2002年も75.3%、2位のシンガポールも91.9%と落ち込んでいる。1989年頃より「情報検索用の磁気テープ」が減少して「マイクロフィルム」が増加し、更に、デジタル普及によりCDが生活の一部になって、アナログがアナクロなどと言われてから20年余、今後の動静に目が離せない。

注：「レーザー読み出しシステム用のディスク」で

(1) 音声及び画像以外の記録の再生用のもの（For reproducing phenomena, other than sound or image）及び (2) その他のもの（音声のみの再生用のものを除く）である。

## 6. その他の国からの輸入通関統計

表6 国別輸入通関額による順位表（単位 百万円）

| 国名        | 2003年1～12月の輸入額 |        |        | 2002年実績<br>書籍+雑誌 | 2003年<br>前年比 | 2002年<br>総合順位<br>(1～9&14) | 2003年<br>総合順位<br>(1～10)<br>(表3-a参照) |
|-----------|----------------|--------|--------|------------------|--------------|---------------------------|-------------------------------------|
|           | 書籍             | 新聞・雑誌  | 合計     |                  |              |                           |                                     |
| 主要10ヶ国の合計 | 38,529         | 15,943 | 54,472 | 54,232           | 100%         |                           |                                     |
| イタリア      | 269            | 253    | 522    | 626              | 83%          | 10                        | 11                                  |
| ブラジル      | 110            | 305    | 415    | 430              | 97%          | 12                        | 12                                  |
| 台湾        | 325            | 33     | 358    | 433              | 83%          | 11                        | 13                                  |
| スイス       | 250            | 91     | 341    | 305              | 112%         | 13                        | 14                                  |
| アイルランド    | 250            | 0      | 250    | 161              | 155%         | 17                        | 15                                  |
| スペイン      | 224            | 5      | 229    | 212              | 108%         | 15                        | 16                                  |
| マレーシア     | 137            | 0      | 137    | 167              | 82%          | 16                        | 17                                  |
| オーストリア    | 8              | 65     | 73     | 21               | 348%         | 25                        | 18                                  |
| インドネシア    | 70             | 0      | 70     | 18               | 389%         | 27                        | 19                                  |
| デンマーク     | 68             | 0      | 68     | 47               | 145%         | 21                        | 20                                  |
| カナダ       | 36             | 19     | 55     | 45               | 122%         | 22                        | 21                                  |
| スウェーデン    | 53             | 1      | 54     | 26               | 208%         | 24                        | 22                                  |
| ロシア       | 52             | 2      | 54     | 70               | 77%          | 20                        | 23                                  |
| ベルギー      | 42             | 10     | 52     | 92               | 57%          | 18                        | 24                                  |
| オーストラリア   | 41             | 11     | 52     | 77               | 68%          | 19                        | 25                                  |
| インド       | 27             | 7      | 34     | 41               | 83%          | 23                        | 26                                  |
| ポルトガル     | 15             | 0      | 15     | 0                | 7,500%       | ～                         | 27                                  |
| イスラエル     | 12             | 2      | 14     | 13               | 108%         | ～                         | 28                                  |
| ポーランド     | 6              | 3      | 9      | 10               | 90%          | ～                         | 29                                  |
| アラブ       | 6              | 2      | 8      | 2                | 400%         | 30                        | 30                                  |
| 小計(1)     | 2,001          | 809    | 2,810  | 2,796            | 100%         | ～                         | ～                                   |
| その他の国々    | 55             | 4      | 59     | 107              | 55%          | ～                         | ～                                   |
| 小計(2)     | 2,056          | 813    | 2,869  | 2,903            | 99%          | ～                         | ～                                   |
| 合計        | 40,585         | 16,756 | 57,341 | 57,135           | 100%         | ～                         | ～                                   |

注：2002年実績は、2003年の順位により算出し直してある。  
注2：2003年は、スロバキア、北朝鮮、メキシコが順位もたず。

### <考察>

「タイ」が14位から10位へ、「イタリア」が10位から11位へ動いた。前年比で見ると、オーストリア、インドネシア、スウェーデンの各国からの輸入が増えている。構成比では0.03%と小さいがポルトガルから特別の輸入があったようである。この20ヶ国の合計の構成比は2002年が4.3%、2003年が4.9%と微増である。その増加分が主要10ヶ国の構成比、2002年は95.5%、2003年は94.9%に現れたかに見える。——訂正とお詫び：2002年度の表6で誤りがあり、正しくは28位イスラエル（13）、29位北朝鮮（11）、30位ポーランド（10）。上記の構成は訂正後の数値である——。

因に、31位はニューカレドニアの（7）が興味深い。“New Caledonia”は南西太平洋、オーストラリア北東方にある火山島群で、フランス領。メラネシア人・フランス人が住みニッケル・クロム・コバルトの重要産地。中心都市ヌーメア“Noumea”、人口186,000（1995年）、面積18,000平方キロメートルである。元囚人徒刑地と言う。

## 7. 為替相場の動向と輸入額への影響

表7 為替相場の動向と輸入額への影響

| 通貨     | 2000年の<br>年間平均<br>為替相場 | 2001年の<br>年間平均<br>為替相場 | 2002年の<br>年間平均<br>為替相場 | 2003年の<br>年間平均<br>為替相場 | 前年比<br>（-）は円高<br>（+）は円安 | 決済通貨の<br>推定使用率<br>（貿易取引データ） | 2002年度の<br>推定影響度 |
|--------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------------|------------------|
| US\$   | ¥107.83                | ¥121.54                | ¥125.34                | ¥115.99                | 7.46%                   | 71%                         | 108.06           |
| Stg.£  | ¥165.17                | ¥175.09                | ¥187.99                | ¥189.41                | -0.76%                  | 2%                          | 99.25            |
| EURO   | ¥99.64                 | ¥108.81                | ¥118.14                | ¥131.02                | -10.90%                 | 1%                          | 90.17            |
| CAN\$  | ¥73.05                 | ¥78.50                 | ¥79.80                 | ¥82.88                 | -3.86%                  | 1%                          | 96.28            |
| S.Fr.  | ¥63.94                 | ¥72.07                 | ¥80.54                 | ¥86.21                 | -7.04%                  | 1%                          | 93.42            |
| Others | ～                      | ～                      | ～                      | ～                      | 0.00%                   | 1%                          | 100.00           |
| JPN¥   | ～                      | ～                      | ～                      | ～                      | 0.00%                   | 23%                         | 100.00           |
| 推定値    | ～                      | ～                      | ～                      | ～                      | ～                       | 100%                        | 105.51           |

注1：為替相場の年間平均は年中平均値の加重平均である。

注2：決済通貨の推定使用率は「財務省の2000年度貿易取引データ」をベースに推定したものである。

注3：2003年度の推定影響度は、主要通貨以外の変動率を「0」とし、2002年度を100とした指数である。

### <考察>

為替相場は円/USドルが越年と同時に12月のレートから銀行筋の月中平均値で2.9%高くなり、9月には5.7%高の¥115台にまで動いた。一方、他の通貨はおおむね円安に動き、円/ユーロは6月に11.1%安の¥138台であった。なお、レートについては「税関長公示レートの月平均、年平均」（各税関において税関長が毎週公示しているレートを、適用日数で加重平均したもの。）では、数値に0.3%ほどの差があり、円/ドルの年平均は¥116.41、円/ユーロは¥130.66であった。

注：当データは、みずほ銀行から提供していただいた2003年の「公示中値 月中平均 一覧表」によるものである。ここに、ご協力に対し深く感謝申し上げます。

## 8. 輸入額、為替相場前年比、決済通貨使用率をベースにした推定成長率

表8 輸入額と為替変動率をベースに推定した成長率（最近10年の前年比）

| 区分<br>年 | 書籍・雑誌輸入額の<br>前年比 | 主要通貨の為替相場加重<br>平均値前年比 | 円高/円安調整後の<br>推定成長率 |
|---------|------------------|-----------------------|--------------------|
| 1994    | 99.80%           | 6.60%                 | 6.40%              |
| 1995    | 105.00%          | 3.40%                 | 8.40%              |
| 1996    | 117.40%          | -14.10%               | 3.30%              |
| 1997    | 109.00%          | -8.00%                | 1.00%              |
| 1998    | 101.00%          | -6.07%                | -5.07%             |
| 1999    | 90.56%           | 14.99%                | 5.50%              |
| 2000    | 101.12%          | 13.52%                | 14.64%             |
| 2001    | 117.37%          | -6.04%                | 11.33%             |
| 2002    | 97.90%           | -6.44%                | -8.54%             |
| 2003    | 100.40%          | -2.30%                | 5.51%              |

注：2003年度の成長率の推定は、決済に使用された主要通貨を勘案して算出した数値である。

### <考察>

昨年の経験から、決済通貨の使用率を使用した場合に見る近似値がより正確度が高いと考え、財務省の貿易データ（2000年）を再度ベースにした。（最近年の貿易データは未入手のため。）

注：為替相場の前年比は（＋）は「円高」を、（－）は「円安」を示す。

## 9. 洋書関連品目輸入額統計

表9 洋書関連品目輸入額統計(内訳)表(単位 百万円)

| 品 目             |              | 2002<br>輸入額 | 2003<br>輸入額 | 前年比  | 1994<br>輸入額 | 10年間の<br>成 長 度 |
|-----------------|--------------|-------------|-------------|------|-------------|----------------|
| 幼児用の絵本及び習画本     |              | 3,142       | 3,401       | 108% | 1,723       | 197%           |
| 楽 譜             |              | 722         | 756         | 105% | 749         | 101%           |
| 地図・<br>海図<br>など | 地球儀・天体儀      | 235         | 320         | 136% | 146         | 219%           |
|                 | 製本したもの       | 39          | 53          | 136% | 81          | 65%            |
|                 | その他のもの       | 418         | 446         | 107% | 206         | 217%           |
|                 | 小 計          | 692         | 819         | 118% | 433         | 189%           |
| 葉書、印刷したカードなど    |              | 1,142       | 1,199       | 105% | 923         | 130%           |
| カレンダー           | 紙製又は板紙製      | 1,994       | 2,069       | 104% | 1,343       | 154%           |
|                 | その他のもの       | 144         | 142         | 99%  | 149         | 95%            |
|                 | 小 計          | 2,138       | 2,211       | 103% | 1,492       | 148%           |
| その他の<br>印刷物     | 広告・商業用カタログなど | 6,379       | 6,631       | 104% | 3,616       | 183%           |
|                 | 写真           | 1,178       | 998         | 85%  | 1,011       | 99%            |
|                 | 絵画・デザインなど    | 2,682       | 2,381       | 89%  | 3,523       | 68%            |
|                 | その他のもの       | 17,679      | 18,516      | 105% | 20,149      | 92%            |
|                 | 小 計          | 27,918      | 28,526      | 102% | 28,299      | 101%           |
| 郵便切手・収入印紙など     |              | 521         | 272         | 52%  | —           | —              |
| デカルコマニア         |              | 832         | 910         | 109% | —           | —              |
| 設 計 図           |              | 199         | 113         | 57%  | —           | —              |
| 合 計             |              | 37,306      | 38,207      | 102% | 33,619      | 110%           |

## <考察>

郵便切手と設計図を除けばおおむね良い伸びを示している。「幼児用絵本」は昨年に引き続き順調に推移した。地球儀と地図（製本したもの）も前年比でそれぞれ36%の増加である。地図は2002年、即ち昨年、前年比19%の減少を食い止めて、輸入額が高かった2001年をも10%上回った実績を作った。最近、デパートの地球儀ショーを通りかかったが、世界情勢が渾沌としているなかで、「何処で」、「何が」を見極めて現状把握を考える向きが増えたのかも知れない。

注：関税上の分類について、(前編)1)に解説したものの以外は次の通りである。

- (1)葉書（印刷したもの及び挿絵が有するものに限る。）及び個人のあいさつ、伝言又は通知を印刷したカード（挿絵を有するが有しないか又は封筒若しくはトリミング付きであるかないかを問わない。）
- (2)カレンダー（カレンダーブロックを含むものとし、印刷したものに限る。）
- (3)その他の印刷物（印刷した絵画及び写真を含む。）および広告、商業用カタログその他これらに類する物品；絵画、デザイン及び写真。

## 10. 参考資料（輸出通関統計）～Ⅰ

表10 2003年1～12月輸出通関統計表(単位 百万円)

| 品 目                          |               | 02/1～12月<br>輸出額 | 03/1～12月<br>輸出額 | 前年比  | 構成比  |
|------------------------------|---------------|-----------------|-----------------|------|------|
| 書籍<br>及び<br>それに<br>類する<br>もの | 単一シートのもの      | 566             | 624             | 110% | 4%   |
|                              | 辞典及び事典        | 118             | 73              | 62%  | 0%   |
|                              | その他のもの        | 12,737          | 12,069          | 95%  | 70%  |
|                              | 幼児用絵本         | 28              | 33              | 118% | 0%   |
|                              | 小 計 (1)       | 13,449          | 12,799          | 95%  | 74%  |
|                              | 楽譜            | 133             | 135             | 102% | 1%   |
|                              | 地図・海図         | 78              | 55              | 71%  | 0%   |
| 新聞・雑誌                        | 小 計 (2)       | 211             | 190             | 90%  | 1%   |
|                              | 週に4回以上発行するもの  | 33              | 93              | 282% | 1%   |
|                              | その他の定期刊行物     | 4,278           | 4,190           | 98%  | 24%  |
|                              | 小 計 (3)       | 4,311           | 4,283           | 99%  | 25%  |
|                              | 合計(1)+(3)     | 17,760          | 17,082          | 96%  | 9%   |
|                              | 合計(1)+(2)+(3) | 17,971          | 17,272          | 96%  | 100% |

## 11. 参考資料（輸出通関統計）～Ⅱ

表11 10年間の輸出通関額対照表(単位 百万円)

| 暦年   | 書籍・辞書・絵本 |      |     | 雑誌・新聞 |      |     | 計      |      |     |
|------|----------|------|-----|-------|------|-----|--------|------|-----|
|      | 価額       | 前年比  | 指数  | 価額    | 前年比  | 指数  | 価額     | 前年比  | 指数  |
| 1994 | 20,512   | 89%  | 100 | 5,018 | 101% | 100 | 25,530 | 91%  | 100 |
| 1995 | 18,111   | 88%  | 88  | 4,872 | 97%  | 97  | 22,983 | 90%  | 90  |
| 1996 | 18,742   | 103% | 91  | 4,742 | 97%  | 94  | 23,484 | 102% | 92  |
| 1997 | 17,606   | 94%  | 86  | 4,818 | 102% | 96  | 22,424 | 95%  | 88  |
| 1998 | 17,314   | 98%  | 84  | 4,511 | 94%  | 90  | 21,825 | 97%  | 85  |
| 1999 | 15,280   | 88%  | 74  | 4,528 | 100% | 90  | 19,808 | 91%  | 78  |
| 2000 | 14,378   | 94%  | 70  | 4,404 | 97%  | 88  | 18,782 | 95%  | 74  |
| 2001 | 13,848   | 96%  | 68  | 4,302 | 98%  | 86  | 18,150 | 97%  | 71  |
| 2002 | 13,449   | 97%  | 66  | 4,311 | 100% | 86  | 17,760 | 98%  | 70  |
| 2003 | 12,799   | 95%  | 62  | 4,283 | 99%  | 85  | 17,082 | 96%  | 67  |

## 12. 輸入と輸出の比率対照表

表12 比率でみた輸入額：輸出額の歴史（書籍類＋雑誌類のみ）

| 分類 | 1974 | 1984 | 1994 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 輸入 | 76%  | 49%  | 61%  | 71%  | 71%  | 72%  | 73%  | 76%  | 76%  | 77%  |
| 輸出 | 24%  | 51%  | 39%  | 29%  | 29%  | 28%  | 27%  | 24%  | 24%  | 23%  |

## コメント：

「輸入対輸出」はここ4年間ほぼ3：1の割合いで推移している。40年前を振り返ってみると、1964年4月22日がニューヨーク市創設300周年記念の世界万博がフラッシング・メドウで開幕して、そのシンボルとなった高さ42メートルの大地球儀が人工衛星がスタートしてから10年目を象徴したものだったそうだ。アメリカが輝いており、大型出版者がリプリント版プログラムを拡大しようとしていた時期であった。当初は日本で印刷されたリプリント版が大量に東南アジア諸国に輸出された。また、日本ではBJE（Books on

Japan in English) の出版も活発になっていった。20年後の1983年の記録を見ると、輸入対輸出が54：46、そして「輸出が輸入を追い越すのも間近いことであろう。」とコメントが付されている。同年4月4日に「おしん」の放映が始まった。明治の後半の農村を舞台にした小作の「忍耐と辛抱」を画いたもので、後に海外でも人気を博した。日本文化が輸出された一つの形だったと思う。そして、翌年の1984年には49：51とは

じめて輸出が上回った。更に、1985年には45：55、1986年は44：56と輸出が伸びた。しかし、1987年以降になると再び50：50、53：47、55：45、58：42と戻っていった。今は日本経済にも小さな灯りが見えはじめたようである。日本文化の輸出にはいろいろのバリエーションがあるが、もっと真剣に日本文化の普及を考えたいものである。

(おわり)

## 告 知

2004年度定時総会を以下のとおり開催しますのでご出席を要請します。

記

日時：2004年5月28日（金）16：30～17：30

会場：第一ホテル東京シーフォート

※総会終了後懇親会を催しますので、併せてご出席ください。

[理事会]

## お 知 ら せ

事務所を移転しました。

会社名：株式会社 三 友 社

新住所：〒162-0811

**東京都新宿区水道町1-13**

**Tel：03-3513-7911**

**Fax：03-3513-7913**

営業開始日：2004年4月1日

## 委員会報告 <文化厚生委員会>

# 第112回 72会ゴルフコンペ

2004年3月13日（土）会場：狭山ゴルフクラブ 天候 晴れ 参加者：16名（12社）

### 〔成績表〕

|                 | ネット | ドラコン   | 金原 優     | 関口晴生 |
|-----------------|-----|--------|----------|------|
| 優勝 柳 忠士（ワタナベ流通） | 77  |        | 佐藤市郎     | 西山幸児 |
| 2位 山川隆司（ユサコ）    | 81  | ニアピン   | 山川隆司 × 3 | 鶴 竜次 |
| 3位 佐藤市郎（川崎航空）   | 82  | ベストグロス | 山川隆司     |      |
| 4位 金原 優（医学書院）   | 83  |        |          |      |
| 5位 関口晴生（日本出版貿易） | 91  |        |          |      |



## 新・パソコン外論考 (其46)

宇田川一彦

◆Time to say goodbye/別れの挨拶をするときが…

◆We'll be together again/また会う日まで

■唐棣之華、偏其反而、豈不爾思、室是遠而、子曰、未之思也、夫何遠之有、

/The flowers of the cherry tree,/How they wave about!/It's not that I do not think of you,/ But your house is so far away./

The Master commented, "He did not really think of her. If he did, there is no such thing as being far away."

(論語／子罕篇・Confucius;The Analects／Book IX)

【超拙意訳：「唐棣（ニワザクラ）の華、風にゆられてひらりひらりと、あなたが恋しいと思わないではないが、いかにせんあまりにも家が遠いので」、という流行歌について、先生（孔子）がコメント（意見）を述べられました。「何を言っているんだか、本当に彼女のこと思っていないのだよ。思いこんでいるなら、家の遠さなんて問題にならないよ」】

【補注：古注では、この章は、前の章と続けて読みます。新注は、この詩の部分から独立した章として読みます。ここでは、新注スタイルです。】

【外注：論語の中で、筆者がいちばん好きな章です。連載当初から最終稿でと、思っていた章です。】

### ★Personal ComputerとSoftwareについて－10－

◆ワードプロセッサ（WP）と通信ソフトについて

統合ソフト・OpenOffice（OpOfと略記。<http://www.openoffice.org>）のwriter機能（ワードプロセッサ部分）の6回目です。原稿作成後は、とまれファイル名をつけて、拡張子にsxwのついたOpOfオリジナルのフォーマットでセーブします【この形式で、印字したものを、ファクシミリで協会編集部へ送付します】。次に『ファイルの項目』から、「名前をつけて保存」を選び、〈ファイルの種類〉15種の中から、テキストファイル形式でセーブします。

この時点で、OpOfの画面はセーブした【XXX. txt】となっています（筆者の作業環境は、既述の通り、1ソフトは、画面の4分の1の大きさで表示。4つのソフトが同時に起動表示できるようにしています）。

そこで、ブラウザ兼メイラーのOperaを起動し、コンタクトの中に登録してあるJAIPのアドレスをク

リックして、新規作成画面に入ります。で、OpOfで書き上げた原稿画面に戻り、〈編集〉の項目から、「すべてを選ぶ」をクリックして、同じ〈編集〉の項目の中にある「コピー」をします。また、Operaの作成画面に戻り、〈編集〉の項目から、「貼付け」選べば、原稿をメールで送り出す編集画面ができますので、【送信】すれば、いいのです。【Operaの場合は、送信ボタンを押し、送信箱に一旦いれます。そして、プロバイダーとの回線が接続されたところで、もう一度送信ボタンを押し、送付するように設定。これで原稿のテキストファイルを協会編集部に送ります。】

### ★Internetについて（博物館海外編-Singapore-）

シンガポール共和国【The Republic of Singapore＝683キロ平方メートル（東京23区より少し広い）、人口約412万人です。うち約77％が華人系】に約1週間ほど行きました。物価は超安、街は美麗。目的は、博物館とラッフルズホテル（Raffles Hotel＝<http://www.raffleshotel.com>）と宿泊したリッツカールトンホテル（The Ritz Carlton Millenia, Singapore＝<http://www.ritzcarlton.com>）です。宿泊したリッツホテルは、見晴らし最高（高層階でベイビュー）、朝食はよし、ハイティーはいまいち（いま2）でした。

ラッフルズホテルの2階にある博物館では、このホテルに宿泊したモーム、チャップリン、グレース・ケリーなどの写真を見てきました。シンガポール現代美術（Singapore Art Museum＝<http://www.nhb.gov.sg/sam/sam.shtml>）は、かつてのセント・ジョゼフ男子校のコロニアル風建物を改装したものです。中の教会兼講堂もなかなかでした（建物はナショナルトラスト指定）。アジア文明博物館（Asian Civilizations Museum＝Empress Place＋Armenian Street＝<http://www.nhb.gov.sg/acm/acm.shtml>）は、アルメニアン通りの方を見学しました。切手博物館（Singapore Philatelic Museum＝<http://www.spm.org.sg>）は、お勧めです。英国植民地時代、日本占領下、マレーシア連邦への加入、切手からシンガポールの歴史も垣間見れます。

オランウータンを見に、シンガポール動物園（Singapore Zoological Gardens & Night Safari＝<http://www.zoo.com.sg>＝<http://www.nightsafari.com.sg>）へ行きました。（この項未完。7年余59回の連載にお付き合いをいただき、ありがとうございます（筆者）

## 洋書の歴史雑記帳〔XLIV〕ドイツ学術受容の歴史(7) 鈴木陽二

## ◆ドイツとの出会い (4)

「カスパル流外科」の伝承について、千葉大学の図書館に『阿蘭陀国外科加須波留先生系脈』という巻物が所蔵されているというが、これは『カスパル流外科』の学統を書き記したもので猪俣伝兵衛を始祖とした流れが示されている。その中には江戸中期の蘭方外科医大和見水の名も見えるが、見水は京都で医塾を開いて門弟57名を擁し、名医の名があまねく知られた。華岡青洲は、その養世嗣見立の弟子だった。

さて、カスパール・スハンベルヘンの次に来日したドイツ人はメルクライン (Johann Jacob Merklein) だった。彼はドイツ南部地方フランケンの生まれでオランダ東インド会社に理髪師兼外科医として勤務し、1651 (慶安4年) 5月に来日して半年ほど在日した後、同年11月には離日している。彼は東インド会社にいた9年間ほどの体験を綴った旅行記『ジャワ・インド・中国・日本への旅行 1644-1653』は、前に述べた商館長カロンの『日本大王国志』のドイツ語版に付録として合本され、1663年にニュルンベルクで刊行された。シーボルトが来日時に持って来たのはこの版だった。また同時に、前回紹介したハーグの出版社ナイホフ社が刊行した叢書にも含まれている。

ついでに触れると、このナイホフ社によるの叢書 “Reisebeschreibungen von deutschen Beamten und Kriegsleuten im Dienste der Niederländischen West- und Ost-Indischen Kompagnien 1602-1797” (『オランダ東西印度会社勤務のドイツ官吏および軍人の旅行記』) 13巻は、オランダインド会社に勤務し現地に赴任したドイツ人による14編の旅行記が収録されている。内容は、オランダ西印度会社が貿易を主管した南米やアフリカ、東インド会社の支配地域の極東・東南アジアへの旅行記の集成である。日本の洋古書店の目録にも掲載されており、重要な文献である。

クライアー (Andreas Cleyer) はドイツ中部のヘッセン州カッセル生まれのドイツ人だが、1682 (天和2年) と1685 (貞享2年) の2度、それぞれ、一年ほどオランダ商館長として来日した。彼は医学・薬学に造詣が深かったのと同時に植物学に興味を持ち、滞在中に日本の植物や鳥類などの彩色図を日本の絵師に描かせて持ち帰っており、日本研究の先駆者と見られてい

る。その植物画の1,360枚と鳥類画の140枚は、現在ベルリンの国立図書館に所蔵されている。

次いで来日したフリック (Christoph Frick) はウルム生まれの外科医で、1683 (天和3年) 春ごろ長崎に来航した。彼は後年『日本紀行』を著したが、これは1700年に英訳がロンドンで刊行され、次いで1705年にアムステルダムでオランダ語訳が出版された。この旅行記で注目される点は、オランダ商館が長崎出島に移転し、鎖国政策が完成した1641 (寛永18年) 以降オランダ船と唐船以外の入港が禁じられたにもかかわらず、彼が日本にいたところイギリス船やフランス船が入港していたことが記されているという。

それにしても、初期の頃の来日ドイツ人にウルム出身者が多かったのはなぜなのだろうか。ウルムはドイツ南部のバーデン・ヴュルテンブルク州の商工業都市で、中世にはシュワーベン都市同盟の中心として重きをなした。14世紀後半に着手し1980年まで約500年という信じられないような長い年月をかけて建築した、世界で最も高い塔を持つゴシック様式の大聖堂のある都市としても知られている。古くから産業が盛んで、ドナウ川航行の要衝で物資の集散地として栄えた。

それぞれ事情は違うかもしれないが、海外への冒険を夢見てオランダ東インド会社に勤めたのは、なにかウルムという都市の活気に満ちた風土が影響したのではないだろうか。ウルム市役所文書課のシュミットリン (W.Schmidlin) なる人物が1933年に『17世紀の極東におけるドイツ人』という本を上梓しているが、こういう記録を残していることから見ても、ウルム市において同市出身者の極東 (日本) への航海を特筆すべき史実として認識していた様子が伺える。大槻如電編『新撰洋学年表』の1623 (元和9年) の項には、同年ドイツで発行された万国地誌に日本の地図が掲載され、その地図に京都・堺浦・平戸・長崎の名が載っているが大阪・江戸の名は記されていないと書かれている。著名な医学史研究者富士川游はこの書をウルムの古書店で購入したというが、何かウルム市と日本との歴史的な因縁を感じさせるエピソードである。〔参考文献：宮永孝『日独文化人物交流』／鈴木重貞『ドイツ語の伝来―日本独逸学史研究―』／酒井シヅ『日本の医療史』 (元丸善・本の図書館長)

Massachusetts Medical Society

# The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE



## 創刊190周年を迎え、デザインも一新 ますます発展し続けるNEJM

本誌は190年 にわたる歴史を有しており、世界でもっとも高く評価されている医学雑誌の一つである。世界各国、合計25万人に利用されており、毎週、最新かつ重要な研究論文の発表によって、その影響力は多方面にわたっている。

日本国内版には1996年1月初号より主要論文の「日本語アブストラクト」が、1997年1月初号からは「日本語目次」が掲載され、多忙な医師の方々も必要な論文に簡単にアクセスできるようになった。さらに2001年2月号からは「今週の本誌」の掲載が始まり、本誌掲載の主要論文の内容が一目で理解できるようになった。

●2004年 (Vol. 350~351) 週 刊

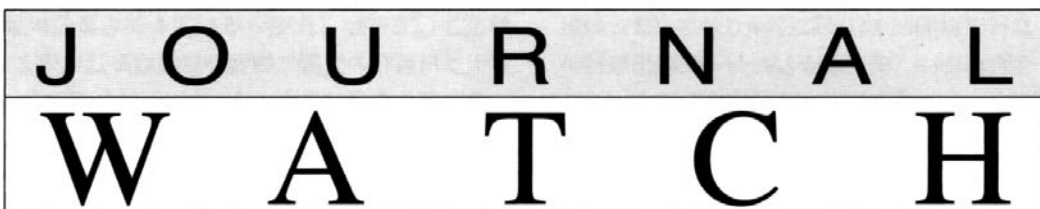
●年間購読価

個 人 : 34,650円 (本体33,000円+税5%) 団 体 : 86,100円 (本体82,000円+税5%)

レジデント : 23,100円 (本体22,000円+税5%) 学 生 : 21,000円 (本体20,000円+税5%)

(レジデント・学生でのお申し込みには証明書が必要です)

●専用バインダー<1年分> 定価7,980円 (本体7,600円+税5%)



- ▶ 毎号8頁のNewsletterなので短時間で通読できる。
- ▶ 毎号平均25論文の要約で最新の知見を知ることができる。
- ▶ コンサイスな読みやすい英文のテキスト。
- ▶ 選択と編集は厳選に: 第一線で指導的立場にある医師チームが論文を選び要点をまとめる。
- ▶ 多忙な実地医家の方々にもっとも興味深い論文を選び抜いている。
- ▶ オリジナル論文の出典が付されいつでも原論文を参照できる。
- ▶ 前月はむろん同月発表の論文もJOURNAL WATCHに掲載。
- ▶ JOURNAL WATCHは月2回発行: 南江堂が航空便にて取り寄せ。

●2004年 (Vol. 24) 月2回発行

●年間購読価 (税別)

個 人 : 25,200円 (本体24,000円+税5%) 団 体 : 42,000円 (本体40,000円+税5%)

レジデント・学生 : 13,650円 (本体13,000円+税5%)

(レジデント・学生でのお申し込みには証明書が必要です)

●特製バインダー<1年分> 定価4,095円 (本体3,900円+税5%)

日本総代理店  
(株) 南江堂 洋書部



〒113-8410 東京都文京区本郷3-42-6  
Tel(03)3811-9950 Fax(03)3811-5031  
e-mail nkdyosho@nankodo.co.jp